

一般社団法人 三重県作業療法士会 広報誌

OTみえ

No.140

2024.2

NEWS

第34回三重県作業療法学会のご案内

—4年ぶりに対面で開催 三重県総合文化センター—



contents

【広報部からのお知らせ】

掲載内容について

会員の皆様へ：広報誌への掲載希望、要望についてご意見をお聞かせください。

広報部 e-mail: mieot.kouhou@gmail.com

[巻頭言]

第34回三重県作業療法学会のご案内 学会長 三重県立こころの医療センター 牧野有華

[知人 de リンク]

花あかり訪問看護リハビリステーション 古市愛理
医療法人 社団主体会 小山田記念温泉病院 坂田翔平

[施設紹介]

一般財団法人 信貴山病院分院 上野病院 倉田彩木香

[エキスパートに聞いてみよう]

長太の寄合所「くじら」 佐野佑樹

[第23回 IT 機器レンタル事業「作業療法士が行う IT 活用支援研修会」]

国立病院機構 三重病院 辻 真吾

[東海北陸リーダー研修]

南勢病院 浅沼慎也

[各部署、委員、ブロックの活動報告]

啓発部より
地域リハ部より
運転と作業療法委員会より

[賛助会員のご紹介]

日本モッキ 〒516-0008 三重県伊勢市船江3丁目17-19
Tel. 0596-65-6039 https://www.nihonmokki.jp/puzzle_rental/
株式会社システムネットワーク ヘルスケア事業部 〒530-0051 大阪府大阪市北区太融寺町2-18 9F
Tel. 06-6364-0529 <http://www.system-network.co.jp/company.html>
田中セイ株式会社 〒518-0444 三重県名張市箕曲中村207
Tel. 0595-63-7851 <https://www.tanakaseni.co.jp>
学校法人名古屋石田学園 星城大学 〒476-8588 愛知県東海市富貴ノ台2-172
Tel. 052-601-6000 <http://www.seijoh-u.ac.jp/>

[求人情報]

求人情報の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。 <http://mieot.com/info-cat/job/>

[編集後記]

表紙写真：桑名市 名港トゥインクル木曾川橋

三重県作業療法士会会員数 681名 施設会員 640名 自宅会員 41名 賛助会社4社

Topics

第34回三重県作業療法学会のご案内

学会長 三重県立こころの医療センター 牧野有華



来る年3月3日(日)に第34回三重県作業療法学会が三重県総合文化センターにて4年ぶりに対面にて行われます。

今回の学会テーマは『つながる・つなげる・つなぎなおす～当事者の伴走者としてOTは何ができるか～』です。

令和2年、新型コロナウイルス感染症の影響によりソーシャルディスタンスをとるようになり、それまで対面によってつながっていたものが途切れてしまったり、つなげる機会がなくなったりしました。しかし、新たな手段としてオンラインなどのICT(Information and Communication Technology)技術が更に加速し、場所や時間、空間を越えてのつながり方、つなげ方ができるようにもなりました。

令和5年5月以降5類感染症に移行し、少しずつ対面での関わりが戻っている中でOT自身、改めて当事者の伴走者としてどう周りをつなげるか、つなげるか、つなぎなおすかを考える機会としたいと思い、このテーマとしました。

午前の特別講演は、『地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割』と題して株式会社アイトラック代表取締役で(一社)日本作業療法士協会理事の佐藤 孝臣氏をお招きし、当事者が生活を送る中で作業療法士がどのような支援を行っているのか、お話ししていただきます。

午後からは一般口述演題12題の発表があります。今回も病院から地域まで様々な場所で活動しているOTの発表を聞くことができます。

演題発表では前学会と同様、優れた発表に対し表彰を行います。当日はぜひ活発な意見交換をお願いします。

また、特別企画として『起業家作業療法士に聞く!地域での作業療法の広がり』と題して株式会社TURNING POINTの山口 英嗣氏と合同会社エバーファインの竹河 誠氏をお招きし、起業のきっかけや実践などお話ししていただきます。

本学会に関わる情報は三重県作業療法士会のホームページに専用学会バナーを用意しておりますのでご覧ください(県士会LINE、メール連絡網でも広報します)。

学会誌に関しては会期が近づきましたら学会ホームページにアップしますので、印刷またはダウンロードしていただき、当日ご持参ください。

学会当日は、対面での久々の再会や新たなつながりの場として有効活用していただければと思います。ぜひ三重県総合文化センターに足をお運びください。



事前参加登録はQRコードから(~2/25締切)

知人 de LINK

花あかり訪問看護リハビリステーション 古市愛理

こんにちは。三重県立子ども心身発達医療センターの北村紗緒梨さんよりご紹介いただきました、花あかり訪問看護リハビリステーションの古市愛理です。



Q：現在の所属と分野について

訪問リハビリテーションにて成人・小児、精神疾患の方などの訪問を実施しています。日常生活動作や巧緻動作などの動作指導や活動支援、環境設定の提案など実施しています。

Q：OTになったきっかけ

母が介護福祉士をしており、幼少期に仕事場に遊びに行っていました。季節の行事やレクリエーションと一緒に参加し、楽しい思い出がいっぱいです。そこで医療従事者の方々にたくさん会いました。そこで出会ったたくさんの職種の中から、作業療法士は細かな作業が多く取り入れられていると知り、私は細かな作業や創作活動が好きだったため興味を持ちました。

Q：プライベートな趣味・特技・マイブームなど

お出かけをした時など、風景や綺麗な物を見つけたら携帯で写真を撮ることが好きです。とくに空や花などよく撮ります。

最近雨上がりに撮った虹が綺麗だったので写真を撮りました。見つけた時は嬉しい気持ちで、ふとした時に偶然、見つけるわくわくを感じながら突然見つけることが楽しいです。

動物を見つけると動くため連写で写るように努力しています。これからもどんどん見つけていきたいです。



Q：次へリンクする方とのエピソードなど

今回は以前同じ職場で大変お世話になった、みたき総合病院の山田祐弥さんを紹介させていただきます。とても尊敬している素敵な先輩です。よろしくお願いします。

医療法人社団主体会小山田記念温泉病院 坂田翔平



皆さん、こんにちは。前回、専門学校先輩である武内病院の池田優梨奈さんよりご紹介頂きました医療法人社団主体会小山田記念温泉病院の坂田翔平です。

Q：現在の所属と分野について

現在、私は小山田記念温泉病院に勤務させて頂き5年目になるのですが回復期病棟に4年勤務後異動となり、小児外来リハビリ兼成人外来リハビリのチームに勤務させて頂いています。小児外来リハビリは子どもや子どもを支える家族様が日常生活で困っている事を聴取し、それに合わせて目標を設定し作業療法を通して家で取り組む事が出来そうな事をアドバイス等行い、困り事の解決を目指しています。私は回復期とは全く異なった分野である為、戸惑う事も多くありましたがチームの先輩方に支えて頂きながら、頑張っています。まだまだ、実力や知識不足な事が多くありますが毎日の臨床の中で勉強を行っていきたく思っております。

Q：プライベートな趣味・特技・マイブームなど

私の趣味はスポーツ観戦、ゴルフです。スポーツ観戦は特にプロ野球(中日ドラゴンズファン)やJリーグ(名古屋グランパスファン)を見るのが大好きです。今シーズン(令和5年)はバンテリンドームナゴヤに2度観戦に行きました。テレビで観戦するのは違い、現地でしか味わうことが出来ない応援の盛り上がりは最高です。ゴルフは専門学校の友達と休みを合わせて、ラウンドに周りに行きます。私はうまくありませんが、たまたま打つ事ができたナイスショットの感覚はとても気持ち良いです。また、ラウンド中は学生時代の話等を行いながらゴルフを行い、とても楽しい時間を過ごす事ができるのでいつも楽しみにしています。

Q：次へリンクする方とのエピソード

専門学校の同級生であり、親友の済生会明和病院に勤務されている伊藤航平さんを紹介させていただきます。よろしくお願ひします。



施設紹介

一般財団法人信貴山病院分院 上野病院

倉田彩木香



1. 施設紹介

当院は、様々な医療福祉施設を展開するハートランドホスピタルグループの三重エリアの拠点であり、伊賀地域で唯一入院施設を持つ精神科医療機関です。精神科・神経科・心療内科・認知症疾患医療センターを有します。また5つのデイケアセンターも併設しており、それぞれが「重度認知症高齢者」、「精神疾患」、「精神疾患を有する高齢者/軽度～中度認知症高齢者」、「軽度認知症高齢者」、「復職支援」を対象としています。入院病床数は認知症治療病棟・精神科病棟（一般・療養・急性期等）併せて410床、全体で約370名の職員が勤務しています。

2. 仕事紹介

当院の作業療法士は、現在25名リハビリ部に在籍し、作業療法室・認知症治療病棟・デイケアセンターにそれぞれ配属されています。

作業療法室では、入院患者様に精神科作業療法を実施しており、疾患や回復過程に応じて、集団活動や個別活動にて音楽、運動、レクリエーション、退院支援に向けての活動等を提供しています。新型コロナウイルス対策で制限もある中、実際に公共交通機関を利用して買い物に行くなど、可能な限り地域生活の復帰に繋がるような活動も徐々に再開しています。

認知症治療病棟では作業療法士・看護師・精神保健福祉士と連携をとりながら生活機能回復訓練を実施しています。日常生活での評価を行い「できること」に視点を向けながら再び地域社会で生活できることを目指して支援・訓練しています。

デイケアセンターは5つのケアセンターに分かれており、看護師や精神保健福祉士とともに、プログラムというかたちでリハビリテーションを提供しています。重度認知症高齢者を対象とする第1ケアセンターでは、個々のBPSD症状を評価し利用者様に合わせた対応を検討したり、体操やゲームなどを通じて心身機能の維持・回復を目指しています。精神疾患を対象とする第2ケアセンターでは、心理教育プログラムを行ったり、イベントを利用者様主体で計画していただいたりすることで、疾患との付き合い方を学んだり、就労に向けてステップアップを行えるよう支援しています。精神疾患のある高齢者/軽度～中度認知症高齢者を対象とする第3ケアセンターでは、座位で行える全身運動やレクリエーションを中心に大集団活動に取り組んでいます。また認知症疾患医療センターの取り組みの一環として認知症カフェの運営も行なっています。軽度認知症高齢者を対象とする第4ケアセンターで

は、認知症の進行予防を目的に、脳活性化プログラム、運動プログラム、創作・芸術活動などを行なっています。また認知機能評価を基にグループ編成し、認知機能の程度に合わせた活動も実施しています。復職支援を行うリワークデイケアセンターでは、うつ病やうつ症状で休職されている方を対象としており、認知行動療法などを通じて、ご自身の考え方の傾向やストレスマネジメントについて学び、再発予防のサポートをしています。

3. 今後について

当院は地域唯一の精神科医療機関であり、精神疾患を持ちながら生活されている方はもちろん、高齢化に伴って認知症や老々介護などへの幅広い支援が求められていると感じています。疾患や障がいを持ちながらも、その人らしく生活することが出来る地域にするためには、安心して過ごせる居場所に留まらず、地域生活を見据えたりリハビリテーションの提供、イベントの参加、作業所への移行など、行政・保健機関と連携した支援を進めることが重要であると考えています。また職員自身も生き生きと働くことが出来るよう、職員有志のクラブ活動もスタートしました。多様化しているニーズに合わせて、利用者様一人一人の疾患の特徴や生活している環境に寄り添った支援を実現出来るよう日々研鑽してまいります。



ケアセンターの様子



活動で育てたハーブや手芸作品を認知症イベントで販売しました。

エキスパートに聞いてみよう！

認知症フレンドリーなまちを目指して

認定作業療法士 佐野 佑樹

- 2011年～ 医療法人松徳会 花の丘病院 回復期リハビリテーション病棟
- 2016年～ 長太の寄合所「くじら」(地域密着型通所介護)



1. 認知症とともに歩まれている方との作業療法

- 目的：脳の障害などにより意味のある作業が遂行できない方に対して、作業の遂行を通じてその人の生活や人生によりよい影響をもたらすこと
- ポイント：クライアントの理解から始まり、その作業の特徴を理解したうえで、作業遂行を分析し、その作業の遂行が引き出されるように環境を整え、チームでアプローチすること
- 大切にしている当事者の声：進行を遅らせるために何をするかよりも、よりよい人生を送るために何をするかを考えたい

認知症とともに歩まれている方が教えてくれた言葉です。私自身恥ずかしながら、新人の時は治療者と捉え作業療法を展開してきましたが、認知症の行動心理症状（BPSD）の裏にはその方が言葉では言い表せられない「助けて」のメッセージが隠されていることに気が付きました。不潔行為とされる弄便は手に付いた不快感のあるものを取り除きたいということ、徘徊は目的なく歩き回ると勘違いされがちですが、目的地に着く前に短期記憶低下のため道に迷い混乱していることが多いです。

トムキッドウッドが提唱したパーソン・センタード・ケアでは、認知症のある方の行動や状態には、①脳の障害以外に、②性格、③生活歴、④健康状態、⑤その人を取り囲む環境、が関わっているとされています。認知症に限らず、だれもが豊かな人生、楽しいと感じる暮らしを望んでいるはずです。そのためには、認知症の状態だけアセスメントするのではなく、その方の歩んできた人生に寄り添い、好きなこと、やりたいこと、夢や希望とともに生活のなかで語り合い、形にしていく。その過程を大切にしています。

2. 認知症になっても夢や希望を叶えることができる

「してみたい事を形にする」を理念に、普段の何気ない会話や回想法を用いた会話、興味・関心チェックシートを用いた「してみたい事」を引き出すツールを用いて、一人ひとりのしてみたい事を聴き、多職種や関係する人で共有、その作業のできる事探しとどのようなサポートでできるかを分析し、形にしていきます。

例：

歌を歌う・演奏したい・誰かの役に立ちたい

→ 歌とミュージックベル演奏の合唱団活動

縫い物・賃金を伴う活動・誰かの役に立ちたい

→ くじら屋さん、得た収入で寿司や鰻で慰労会

子供が好き・喜んでもらいたい

→ みまもり隊、園児へのプレゼント作り、春夏秋冬の祭り

3. 認知症フレンドリー社会をつくる

県士会の「認知症とともに班」の仲間と多くのOTとともに、たとえ認知症になっても不便を感じずに生活できる環境づくりを行っています。例えば、ゆっくり焦らずに買い物できる環境をつくるため、認知症のある方と買い物を行いPADA-Dという評価を用いて分析、その視点を小売業団体の環境づくりに活かしています。また人と人を繋ぐ回想法を用いて、認知症カフェにて当事者同士の交流支援に活用し、家族に自宅でもできるコミュニケーションの工夫として伝達しています。たとえ認知症になったとしても、やりたい事を叶えることができる、誰かの役に立つことができる、認知症フレンドリーなまちを一緒につくっていきましょう。



第23回 IT 機器レンタル事業

「作業療法士が行う IT 活用支援研修会」(三重県)を開催しました

国立病院機構三重病院 リハビリテーション科 辻 真吾

情報関連技術(IT)は意思伝達装置としてだけでなく、近年のIoT化が進む中、スマートフォンの操作を含め生活支援の一環として作業療法士の支援が求められる場面も多くなってきています。しかしながら、なかなか勉強したくてもできない、何から勉強したらよいか分からない、コストがかかる、施設には設備がないために患者さんと練習ができない等の悩みもありました。

今回、COVID-19の影響で4年間延期されていた標記研修会が、令和5年11月18(土)、19日(日)に、(一社)日本作業療法士協会主催で三重県立こども心身発達医療センターを会場に研修会が開催されました。

内容は、8名の講師陣による講義とIT機器体験を中心とした研修で、株式会社クレアクトからは重度障害者用意思伝達装置(TCスキャン)、国立研究開発法人産業技術総合研究所からは、代替ジェスチャーインターフェース(Augmentative and Alternative Gesture Interface:AAGI)を紹介・体験させていただきました。

県内外より21名が参加し、「iPadの設定を変えることで無限に使い方がある事を知れて勉強になった」、「実際に機器を触り、その場で質問できとても有意義な研修だった。レンタルしてもらえる事で対象者に実際に使ってみる事ができ支援の幅が広がりそうです」、「知らない事で対象者さんの幅を狭めている。ネットワークを使って情報を集めていこうと

思った」などの感想をいただきました。

研修終了後は”あいていたいむ”に登録することで過去の研修資料を見ることができ、講師陣とのメールでの個別相談、OT協会からは、無料で機器レンタルが行えるようになります。

この研修会を通して、IT機器を活用する事で患者さんの心身機能の改善、活動と参加の可能性を広げられる事、また自分だけ、自施設だけでは難しいと思っていた事も講師陣と情報交換をすることで、一緒に対象者のIT支援を行う事ができると感じました。

今後県内でも同様の研修会が開催されIT活用のできるOTの輪が広がる事を願っています。



AAGIとは?

ユーザのジェスチャーに基づき、パソコンや室内設備の操作を可能にするインターフェースです。

市販の距離カメラを利用して、各個人の多様なジェスチャーに合わせた認識ができます。

AAGIの特徴

- 非接触
- 障害部位に合わせて認識が可能
- カンタンに個人利用

無料ソフト + カメラ (お2台、お3台以内) = 9種類のジェスチャー利用可能

AAGIはユーザ各々のAAGIジェスチャーを学習します

マルチジェスチャー認識エンジンの開発

多様なジェスチャーを認識するため、9種の認識エンジンの開発を行っています(図)。

図1: 9種の認識エンジン

図2: 多様なジェスチャーとその対応

AAGIをもっと知るには? <http://gesture-interface.jp>

[活動の報告]

東海北陸リーダー研修に参加して

南勢病院 浅沼慎也

令和5年11月26日(日)にWEB開催されました「東海北陸リーダー養成研修会」に、東海北陸の各士会約30名が参加し、研修を受けました。

本研修の内容は一般社団法人日本作業療法士会 会長山本伸一先生から「これからのOT、臨床そして県士会に求められるリーダーとは」、医療法人社団清明会 静岡リハビリテーション病院大石裕也先生から「医療現場におけるリーダーシップとマネジメント」、その後グループワークという構成でした。

山本会長からは現場と職能団体で培った30数年の経験をお話いただきました。臨床で大切にしてきたことを体験談として広め、「人を大切にすること」、「成長を見守ること」など多くのことを拝聴いたしました。

大石先生からはリーダーシップの重要性だけでなくフォローシップの大切さも伝えてもらいました。チームとしてお互いを理解することで双方へ向上が認められることは臨床の場でも感じる部分が多かったです。マネジメントに関しても、中小企業と大企業の生産性についても興味を持つことができました。

グループワークでは「県士会の課題について」、「職場の課題について」のテーマで意見交換を行い有意義な時間を過ごすことができました。

今後、臨床でリーダーとして活動していく中で、今回の研修で学んだことを活かしていきたいと思います。

最後になりますが、今回このような機会を与えていただき誠にありがとうございました。

[各部署、委員、ブロックの活動報告 1 啓発部より]

『メディカルみらいフェス』にスタッフ参加して

専門学校ユマニテク医療福祉大学 熊谷ちほり



知り合いのM医師から「中高生を対象に、保健・医療・福祉に関わる専門職が仕事のやりがいや内容を紹介する『メディカルみらいフェス』をするんだけど参加しない?」との誘い。1人でも多くの学生さんに『作業療法士』を知ってもらえる機会と思い参加しました。初めは、よくある「職業ガイダンス」の様に各職種のブースがあって、中高生がそれぞれ興味のあるブースに行き仕事内容を聞いたり、簡単な体験を

するものだろうと思っていましたが、そもそも今回のフェスを企画したM医師は『よくある普通の企画』は企てない人物。尾鷲熊野地域を中心に地域医療に携わる人材を育てたいという熱い想いで企画された『メディカルみらいフェス』のテーマは『参加者もスタッフも共に楽しめる体験型アドベンチャー』。

人と人との繋がりから職業興味に繋げて行きたいというM医師の想いがありました。

正直、今回の企画参加に鈴鹿医療科学大学の島崎先生と熊野病院の久保先生に協力をお願いしたものの、1度体験してみないと分からない世界観をお二人にどの様に伝えたら良いのか、ここが一番難しいところでした(笑)。しかし、さすがは作業療法士。「様々な状況を把握し、スキマを埋めるのが得意な作業療法士」という私のザックリとした説明に何となくイメージを持っていただき(たぶん…)フェス当日を迎えました。

今回の企画に参加したスタッフは、地元の専門職だけでなく福岡、大阪、奈良、東京など全国から集まった総勢66名。

また、参加学生は伊勢市、熊野市、新宮市（和歌山県）の中高生47名。4つの体験ブースを通して手術の縫合体験や災害トリアージ、デイサービスの方との交流、自分の想いを語るなど、保健・医療・福祉を総合的に体験できるものとなりました。

私達 OT も中高生グループの引率や災害現場での救急救命体験、カフェブースでの語らいとそれぞれに配置された所で中高生と話をしたりスタッフと交流したりと、いつもとは違う職業紹介（自分紹介）を通して、まずは『作業療法』という名前を知ってもらうことが出来たのではないかと思います。

47人の中高生の手元に渡った『作業療法パンフレット』をきっかけに、将来の作業療法士に繋がることを願うばかりです。



令和5年一般公開講座『コロナ禍でのお酒との付き合い方』

啓発部 公開講座班 班長 栗山 翼

令和5年9月24日に開催いたしました、啓発部主催の一般公開講座におきまして、多数のご参加をいただき誠にありがとうございました。

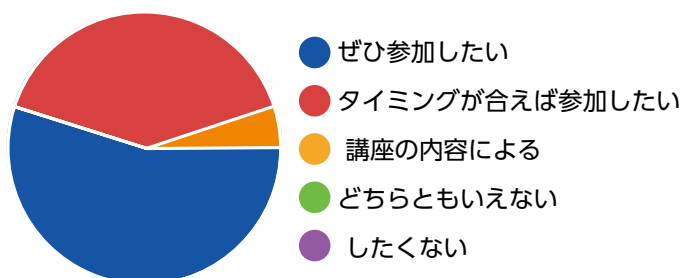
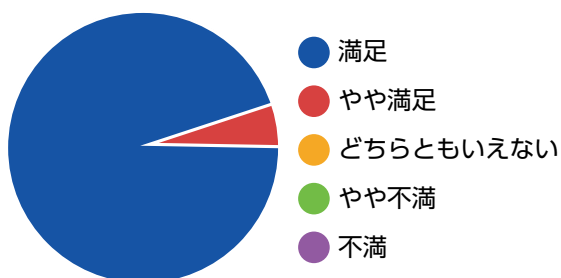
今年度も多くの方々のご協力をいただき、オンラインにて開催することが出来ました。参加者は30名で会社員や大学生の方々にもご参加いただきました。オンラインでの開催であったことから一部の地域のみではなく、三重県全域・一部県外の方々にも参加していただくことができました。

いろいろな分野の方々にご参加をいただけたことを嬉しく思います。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い変化したお酒の飲み方に対して、対面での飲み会が再開されている中で

改めてお酒の正しい理解と付き合い方を考える機会をいただきました。

アンケートの結果では『アルコールの一般知識から、みなさんの客観的意見まで幅広く勉強になった』、『無理なお酒の飲み方をされている方へ、新たな知見（リスクが高いこと）が得られた』、『当事者の話が聞けたのは良かったです』、『両講師の話もわかりやすかった。』と多くの回答をいただくことが出来ました。

今回講師を引き受けていただきました山元孝二先生、小砂哲太郎先生に感謝申し上げます。



【各部局、委員、ブロックの活動報告 2 地域リハ部より】

笑顔の花プロジェクトのご案内

地域リハビリテーション部 夏目紫帆

地域リハビリテーション部では、「笑顔の花プロジェクト」として、前回『塗り絵ハガキ』を作成し皆様に活用していただきました。ありがとうございました。

今回は、コロナ禍での外出制限が緩和され活動機会が増えてきた中で、社会参加のきっかけ・楽しみの提供ができないかと部員のみinnで話し合い『川柳カルタ』を作成することになりました。

そこで利用者様・患者様とその御家族そして作業療法士

自身を対象として、皆が元気になれるような川柳を募集し、その川柳を読み札にしたカルタの作成を予定しています。また、取り札には川柳に沿った写真を併せて送っていただきます。

川柳を作るために外出をすることや、目標をもってリハビリを行うなどのきっかけにも活用していただけると幸いです。

元気を伝えられるような明るい川柳・写真のご応募お待ちしております。

ステキな『川柳カルタ』が出来るよう、皆様のご協力よろしくお願い致します。

詳細は下記のQRコードから県士会HPをご参照下さい。



【各部局、委員、ブロックの活動報告 3 運転と作業療法委員会より】

運転と作業療法委員会主催 情報交換会について

運転と作業療法委員会 委員長 宮坂裕之

令和5年9月15日(金)、オンラインにて県内の作業療法士による運転支援の情報交換会を開催しました。当日は25名の参加者が集まり、日頃の臨床における課題を共有しました。はじめに、運転と作業療法委員会の活動報告についてプレゼンがあり、その後、県内の運転支援協力施設 (<https://mieot.com/aboutus/> 自動車運転支援施設一覧・所在マップ)の代表者より、各施設の運転支援に対する取り組みや課題について報告がありました。

今までのアンケート結果では、運転支援に関わる施設、作業療法士が少ないのが現状です。その背景として、支援方法の知識不足、支援できる環境が限られている、など取り組

むべき課題が山積しています。これからも県内向けの勉強会、情報交換会を継続し、協力施設を増やしていきたいと思っています。



サポカー限定免許制度新設！ ～活用しよう！新たな選択肢～

運転と作業療法委員会 伊藤玲子

「セーフティ・サポートカー(サポカー)」とは、先進安全技術でドライバーの安全運転を支援してくれる車です。

ハンドル操作の不適や、ブレーキとアクセルの踏み間違いによる死亡事故の割合は、75歳未満が13.4%に対し、75歳以上が30.1%と高い割合です(出典：警察庁)。

交通事故防止対策の一環で、高齢運転者が運転できる車種をサポカーに限定する免許が新設され、運転に不安を感じる方に対して、新たな選択肢ができました。

ただし、サポカー限定免許は、一般に「サポカー」と呼ばれるすべての車が限定免許の対称ではないため注意が必要です。



(出典：経済産業省「サポカーの区分について」)

対象となるのは、

①衝突被害軽減ブレーキ(対車両・対歩行者)

車載レーダー等により前方の車両や歩行者を検知し、衝突の可能性がある場合には、運転者に対して警報し、さらに衝突の可能性が高い場合には、自動でブレーキが作動する機能。

②ペダル踏み間違い時加速抑制装置

発進時やごく低速での走行時にブレーキと間違えてアクセルを踏み込んだ場合に、エンジン出力を抑える方法により、加速を抑制する機能。

*①の装置が道路運送車両の保安基準に適合するもの又は①及び②の装置(MT車は①の装置のみ)がそれぞれ国土交通大臣の性能認定を受けているものに限りです。

申請方法や対象車種のリストは、警察庁(<https://www.npa.go.jp> ホーム>政策>申請・届出等>窓口・手続き案内>運転免許の更新等運転免許に関する諸手続きについて>サポートカー限定免許について)で公開されています。

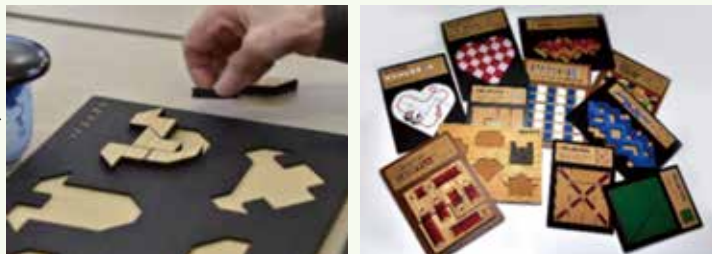
[賛助会員のご紹介]

NihonMokki のパズルレンタルのご案内

指先運動とパズルで脳トレ!科学誌ニュートンにコラムを掲載していた Asobidia の本格パズルが定期的に届きます。

レンタルなので、パズルに飽きたところに新しいパズルが届きます!

お問い合わせは こちらの QR コードから



日本モッキ

https://www.nihonmokki.jp/puzzle_rental/
0596-65-6039

e-mail wood@nihonmokki.jp

Puzzle Rental

VR型半閉空間無視リハビリ支援システム
vi-dere
Vi-dere(ウィアデーレ)はVR技術を用いて、机上検査ではできなかった、三次元的評価を実現しました。
無罪領域をマッピングを用いて可視化
独自のスリットシステムによる介入訓練が可能
日常場面に近いADL訓練課題も搭載(食事・通路通過など)



撮影協力：亀田リハビリテーション病院様

視覚認知領域を定量的にマッピング化かつADL場面を含めた評価・訓練が可能になりました



株式会社システムネットワーク



星城大学大学院 健康支援学研究科

健康支援学領域

障害・リハビリテーションや健康支援・障害予防のための環境と方法を科学する
障害発生後のリハビリテーション健康支援と中高年者の心身の健康保持増進に向けた生活健康
支援に関する知識と技術を普及できる臨床家と研究教育者を養成

2024年度 大学院 生 募 集

【お問い合わせ】 星城大学大学院入学試験係

〒476-8588 愛知県東海市富貴ノ台 2-172 TEL.0120-601-009 FAX.052-601-6010
URL <https://www.seijoh-u.ac.jp/graduate/> e-mail:nyushi@seijoh-u.ac.jp

[勉強会 / 研修会のお知らせの掲載について]

勉強会、研修会の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。

<http://mieot.com/info-cat/study/>

[求人情報のご紹介]

求人情報の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。作業療法士会ホームページをご覧ください。 <http://mieot.com/info-cat/job/>

[編集後記]

2024年を迎えて皆様はいかがお過ごしでしょうか。新年早々石川県能登地方を中心に地震が起きました。この度の災害に際し、被災された皆様のお見舞いを申し上げます。

さて、2019年12月に中国で新型コロナウイルス感染症の第1例目の感染者が発見されてから4年が経過し、昨年5月法律上5類へ変更され、感染者への対応は緩和されています。マスクの着用は自由化になり、買い物でお店に入った時もマスク非着用の人も見られるようになってきました。自分の勤務する施設は高齢者の方と接する機会が多いため、面会制限やマスクの着用は継続しており、特に業務上の変化は感じていませんが…

会議や研修会がリモートやオンラインにて行われるようになり、この形が主流になりつつあります。今年もどのような研修会が企画・実施されているかを確認しながら参加していきたいと思えます。

亀山回生病院 岡田拓朗

(編集:渡邊 誠、岡田拓朗 部局員:宮坂裕之、伊藤篤史、萩野 創)

発行所

〒514-1296
三重県津市大鳥町424-1
藤田医科大学七栗記念病院内
一般社団法人三重県作業療法士会 広報部
発行責任者:田中一彦

事務局

〒512-1111 三重県四日市市山田町5538-1
小山田記念温泉病院 リハビリテーションセンター内
一般社団法人三重県作業療法士会 事務局
TEL: 059-328-1260
FAX: 059-337-9511
e-mail: mieotjim@yahoo.co.jp